AGRI WORK POINT
アグリワークポイント

米

米づくりは苗半作

農業経営支援課
石川 顕史

《生育ステージごとの最適管理》

1. 出芽時の温度管理に注意

出芽温度が32℃を超えると高温障害はもちろん徒長苗の原因になります。

①高温になりそうな好天日は、早めに換気し、ビニールハウスやトンネル内の温度上昇を防ぎましょう

②低温時は、遮光資材を使用せず、保温用シートをベタ掛けするなどビニールハウスやトンネル内の温度管理に努めましょう

③温度計は、育苗箱のふちに置かず、必ず床土の温度を測りましょう

2. シルバーポリトウの除去はタイミングを逃さずに

被覆期間は7～10日程度を目安とします。シート除去の遅れは徒長苗の原因になります。シルバーポリトウは断熱性があるので、トンネル内は異常高温にならず換気の必要はありませんが、緑化期間は換気を行う方がより良い健苗を得られます。

※シルバーポリトウの使用は4月下旬以降の播種を対象としています

3. 適切な水管理

かん水は、緑化期（1.5葉期）までは1日1回午前中の9時以降に行います。硬化（1.5葉期以降）は、午前1回・午後1回（15時前）行います。

夕方のかん水は、温度低下や夜間の呼吸を妨げるので避けましょう。曇りの日や雨の日は極力かん水を控え、床土が過湿状態にならないようにしましょう。

《毎年ある育苗失敗例とその原因や対策》

①むれ苗※症状…発芽後、異常な低温（4℃以下）の次の日に晴天で、高温となり、蒸散が盛んになると発生。日中は25℃以上、夜間は5℃以下にならないよう温度管理に注意しましょう

※むれ苗症状とは、葉が急に巻き、蒸れてよれたような症状です。給水しても葉は広がらず、やがて地上部は枯れ、根が腐り、容易に引き抜けます。進行すると苗立枯病になります。

②発芽不良・不揃い…種子消毒時の浸種や催芽不足、覆土が厚い、播種むら等。対策として液肥を3日置きにかん注しましょう

③育苗中に病気発生…種子消毒の徹底、播種時または発芽後に「タチガレエース液剤」散布

①③は、播種時または発芽後に「**タチガレエース液剤**」を散布することで、ある程度予防できます。**予防剤なので、症状が出る前に使用してください。**詳しい使用方法は、最寄りの営農経済センターへお問い合わせください。